



宝木中学校だより

たくましく さとく あかるく いきいきと

令和2年9月号

発行責任者 手塚宏行

1学期も終盤です

今年は猛暑でしたが、小笠原気団の勢いが少しずつ収まってきたようで、秋雨前線が活躍する日も増えてきており、秋の訪れを少しずつ感じる季節となりました。

生徒たちは、お盆明けの猛暑の中、夏休みの短縮に対応するとともに、頑張っ

て日々学習等に励んでいます。また、保護者の皆様におかれましても、三者懇談では大変お世話になりました。早いもので1学期もあと1か月余り。3年生の修学旅行も日程を秋に変更するとともに、東北方面に変えた甲斐あり、まもなく実施できる予定です。(来年度、再来年度の修学旅行は、今のところ奈良・京都に戻す予定で準備を進めています。ただし、新型コロナの今後の状況次第では、再検討を迫られる可能性はあるでしょうが・・・)

また、10月9日には1学期終業式を迎えます。すでにお知らせしたとおり、新型コロナによる臨時休業があったため、今年度は秋休みを2日短縮し、13日(火)より2学期始業といたします。つかの間の秋季休業ではありますが、生徒には気持ちを新たに、目標にむけて頑張っ



個に寄り添う「けやき学級」の指導

本校のけやき学級(特別支援学級 自・情)は、設置から5年目に入り、**個に応じたきめ細やかな支援**を行っています。

また、特別支援学級は、生徒の実態に合わせ柔軟に教育課程を組めることを活かし、様々な体験学習をはじめ、その子の実態に応じ、「わからない」、「できない」ところから、**着実に学習を進めています**。生徒が確実に習得していく姿は、大変素晴らしいものです。

さらに、学習ばかりでなく、不得手としている資質・能力(例えばコミュニケーション力など)を伸ばさせるためのソーシャルスキルの指導も充実しています。

このようにして**確実に実力をつけ、自信を得た生徒は普通学級でも授業を受ける**ようになっていきます。

(いわゆる交流学习。現在2名の生徒が実施し、多い生徒は8教科を学習しています。)

現在の特別支援学級は、昔の特殊学級とは大きく異なっています。これは平成18年に学校教育法が改正され、これに基づき、名称を改め、その内容も大きく変化したからです。

もし、生活や学習に不安な要素がある場合は、「**急がば回れ**」の考え方をし、必要であれば積極的に活用していくことをお勧めします。なお、詳しく知りたい方は、まずは学級担任にご相談ください。



交流学习での様子

◆◆10月の主な行事予定◆◆

2日(金) 県立・私立高校入試説明会(3年)	13日(火) 2学期始業式
6日(火) 生徒会役員選挙	16日(金) 実力テスト(1・3年)
9日(金) 1学期終業式	26日(月) 専門委員会
10日(土) 学期間休業(~12日)	

※学校だよりは、個人情報保護に対応し、個人名や写真は本人等の許諾を得て発行しています。

※学校だより(カラー版)は、ホームページに掲載しています。「宇都宮市立宝木中学校」で検索してください。

新型コロナ対策と持続可能な社会の実現(SDGs)

新型コロナウイルス感染症を収束させるために、本校生徒は勿論、全世界が予防、治療、特効薬ワクチンの開発など懸命の努力をしています。しかしながら、大方の専門家の言葉を借りれば、ワクチンが開発されたとしても、**全世界の人にいきわたるには2～3年はかかり、その間はどの国でも、対策をとり続けなければならない**とのこと。

さらに言えば、この世には「インフルエンザ」や「はしか」「コレラ」など様々なウイルスがありますが、**根絶に成功したのは、天然痘ウイルスの唯一つ**です。(天然痘は日本では平安時代からあったようです。)

これらのことから「ウイルスとの共生」ということは、一定の収束はあるもののおそらくは数年単位以上を意味することになりそうです。そう考えると、我が国の言う「**新しい生活様式の定着**」は、時期によってのメリハリをつけながら、しばらくは必要不可欠なものになると言えるでしょう。それは、あたかも交通安全や食の安全のようになります。

さて、今年度の修学旅行は何とか時期と方面を工夫することで実施できそうですが、文化祭は中止とさせていただきます。生徒や保護者の方にとっては、とても残念に思っていることと思います。文化祭は生徒が真剣に取り組むとても良い行事であり、もちろん私も同じ気持ちです。しかしながら、音楽室より狭い教室で、マスクを外して大きな声で歌う毎日の練習のことを考えると、科学的知見から考えて、安全性に大きな課題があると考えざるをえませんでした。また、3密を避けるために、今年度、体育館に生徒全員が集合できたことも未だありません。

このような中、安全な折衷案として、午後の部の演劇と吹奏楽については、お昼の校内放送で放映していく方向で調整を進めております。どうぞご理解の程をお願いいたします。

次に、「**持続可能な社会の実現**」についてですが、**SDGs** (エス・ディー・ジーズ・持続可能な開発目標)は2015年の国連サミットで採択されたもので、国連加盟国が2016年からの15年間で達成するために掲げた目標です。

これについては、本校でも、「**環境教育**」という形で、**CO₂削減等を今年度の重点目標**の一つに掲げて実施しており、学校マネジメントアンケートにもその項目があります。

一見すると、新型コロナ対策である「冷暖房をしながら換気」をすることは、CO₂削減とは相いれないことのようにも思えます。そうであっても、**むしろ今は何としても感染防止することを優先**せざるをえません。

しかし、その本質をよく見ようとすると、多くの部分で**新型コロナ対策とCO₂削減などの環境問題は、非常に密接に関係**していることがわかります。なぜなら、このウイルスは、そもそも人間が野生動物の乱獲や森林の過剰な伐採をしたことで、両者が遭遇してしまったと考えられているからです。つまりこのことは、このような自然の破壊を続けていく限り、また同様なことがおきることを意味しているのです。

そしてもう一つ、永久凍土に閉じ込められている太古から存在する未知のウイルスが、温暖化によって融けて流出し、人類と遭遇して、今回同様なことがおきる恐れも指摘されています。

これらのことについて、世界の知性の一人と言われるアメリカの地理学者ジャレド・ダイヤモンドさんは、次のように述べています。

「今回の新型コロナに、仮に全人類77億人が感染したとしても、その死者数は、最悪1億5千万人程度となりますが、全員の命は奪いません。しかし、気候変動(地球温暖化)等では、**今後30年以内に社会を持続可能なものにしない限り、77億人のすべての命が失われる可能性があります。**」と両者を比較するとともに、

「新型コロナから地球規模の課題解決について学び、そのノウハウを生かし**気候変動(地球温暖化等)や資源の枯渇に対して、各国が同じ目標に向かい、協力して77億人の命の危機を解決することを期待しています。**」と述べています。
～NHK BS1スペシャル コロナ危機 未来の選択より要約

日本には古来より「**災い転じて福となす**」ということわざがあります。まさにダイヤモンドさんの考えは、それにあてはまるポジティブなものと感じました。

本校もコロナ禍に対して適切に対応していくとともに、ダイヤモンドさんの指摘を胸に刻みつつ、**福につなげられるような学び(環境教育等の充実)を目指していきたい**と考えています。



くつつかないモン
#KeepDistance

